

中国の新幹線

上海より蘇州へは中国の新幹線 CRH「和諧号」を利用した。上海駅の待合室は体育館よりも広く、満席のベンチそして回りには人が取り囲んでいた。とにかく人が多い。しかも春節（中国の旧暦元旦で一年で最も重要な祭日）ともなれば、この場所が数万人の人で溢れ返るという。

定刻近くになってプラットフォームへ下りる案内があった。和諧号に乗り込むと中は日本の新幹線とよく似た内装で親しみを感じた。満席になる頃動き出した。近くで大きな声で中国語の会話が飛び交っている。声の響きからして今の中国が元気であることを窺い知る思いがした。

中国の新幹線にも数種類のタイプの違う列車が走っている。私の乗ったのはカナダ・ボンバルディア社のもので最も古い型のように思えた。スピードも時速 200 キロ前後でさして早く感じなかった。この列車の和諧とは胡錦涛国家主席の提唱した和諧社会の政治理念に基づく言葉で、調和の取れた社会を設立しようという意味があるようだ。

車窓からの眺めは平坦な景色が続いた。そんな時ふと歌が口ずさんできた。それは尾形大作の明るい歌声に軽快なメロディーの「無錫旅情」であった。^{むしやく}「♪～君の知らない 異国の街で 君を想えば 泣けてくる 俺など忘れて 幸せつかめと チャイナの旅路を 行く俺さ 上海蘇州と 汽車に乗り 太湖のほとり 無錫の街へ～♪」 40 分の乗車時間はあっという間に過ぎ、世界遺産の街・蘇州に到着した。

撮影 2010 年夏



